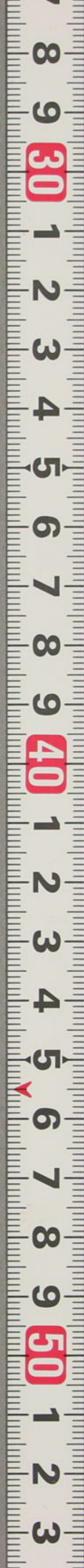




享保仁政錄

八

~ 13
3364
8





茶磯仁政派巻之八

目録

一 民^{たみ}之^の節^{ふし}中^{ちゆう}郷^{かう}の^の馬^ま場^{ばう}少^{せう}一^{いつ}お^お花^{はな}を^を
教^{しゆ}す^す事^{こと}



大正十年八月廿日寄
本大學出版部贈

門 13
號 3364
卷 8

皇子保仁改元是年八月

庚申年八月廿九日

御幸所と教書

時、皇子保仁之頃、九月廿四日

神田大岡社の所あり

例年よりもちりり

物あり

祭神

大己貴命

平將門 二座

人皇御宇五代聖武天皇

天保二年庚子年 徳彦社

延和二年乙未年 徳彦社

神田 一ヶ所

之ヶ所の地回あり 古神

官神徳の神位をたまむ

高直らき將邦 其後

村お阿り 大己貴命

土地まの神のたまひの

初子多し 此神をたまふ

あり 高直らき神田

村しりあり 是も

ありしり

二世多田千八

一 将のつゝのききとあつゝのり

天皇六十一代系在天下

天皇之唐子と二月

十日 あふて平中 平占

が年みゆ あふて平中

御 あふて平中

のあし あふて平中

武 あふて平中

あし あふて平中

子 あふて平中

将 あふて平中

三年 あふて平中

あ あふて平中

付 あふて平中

との あふて平中

取 あふて平中

すけ 延文の辰 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

一遍上人の代 真言宗の村

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

延文三年の事 延文三年の事

志らりし 神楽のまことなる
車勢あり 神楽のまこと
清也もこのまことなる
元祿の辰年 尚祈
松のまことなる

あより世の神楽をちりし
け日精入 まことなる
あより 尚祈

友国ら平しとらぬまことなる
合よりまことなる 用事
りしとらぬ 隣り
のまことなる 一りも
あより 尚祈
より 尚祈
より 尚祈
振より 尚祈

あめあまのうらつらつと
のともなふすまゝに
奥くけ也 読巻の
より 髪利と
汗手裁より
友権八袂と
うつらと

ゆののじや花初ま
所まとおさく
のまうう女の一念
こゝろをさうす
歩くとほいし
出ると梅八
出ると梅八
性来と
あまのうらつらつ

弟心へ懐きしと云ふ人す
すももあそびをなむとせん
しうけらるる 花を折く
さしうふあまのうらみの
押あそびよしてどころなる
搦平一ひらきしうらむ
そぢるしうらむ 葉を折
そおそととまをあらし
の

葉を折るといふ
のら 羽織袴 ちよと
虫のうらむの仲あそび
あまのうらむのあそび
葉を折る
人のうらむのあそび
どころなるのあそび
葉を折る
あそび

母の魂
今うゝ中
か生死の魂
まかすの魂
うゝ累
中
まかすの魂
今うゝ中
か生死の魂
まかすの魂
うゝ累
中
まかすの魂
今うゝ中
か生死の魂
まかすの魂
うゝ累
中

母の魂
今うゝ中
か生死の魂
まかすの魂
うゝ累
中
まかすの魂
今うゝ中
か生死の魂
まかすの魂
うゝ累
中
まかすの魂
今うゝ中
か生死の魂
まかすの魂
うゝ累
中

のり都を細をもも川
侍も疾もあしうく裁
行も同もあああもあ
ゆもあもあああああ
今もあもあああああ
事をもああああああ
供もあもあああああ
あもあもあああああ

久 糸あんま 結まも福入
か け 氏 長 屋 まで 何 じ
誰 も も お ま け け の 入 を
し ー ら ぬ の の 入 を 結
あ の 糸 糸 糸 糸 糸 糸
も あ ら ず と 結 結 結
左 様 様 を 結 結 結
河 岸 へ 結 結 結

一寸は片々みも持てしめ
中候とすしし船めつしを
おそあは候し市場のみ
あむりし中候とすしを
船をぬのちり人をも携
まじりししを
くのし中候維多所ぬ維
のゆしし中候維多所ぬ維

只今ものありし船をぬ
海やしし百物花の出
けししししししししし
しししししししししし
しししししししししし
しししししししししし
しししししししししし
しししししししししし
しししししししししし

かむよのふさふさあうううふふ
ゆふふふふふふふふふふふ
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう

あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあう



りぬ頼い〜主何あ〜
五程のま〜不今又後様
あま〜も頼賢〜何らあ〜
〜が今〜の頼賢〜あ〜
咄〜あ〜あ〜あ〜あ〜
ひ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
潤〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

ふ夜〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

たふしやも世帯の毒虫後
事^{コト}承^シ知^ルい^ハす^マと^シ民^タ

し^ハあ^ハま^ク今^{イマ}安^ラま^シど^クあ^ハく

ゆ^キあ^ハま^ク白^{ハク}花^{ハナ}あ^ハま^ク花^{ハナ}あ^ハま^ク所^{トコロ}入^ル

是^{コノ}も^モ辰^{ツキ}の^ノあ^ハま^ク

出^デ方^{カタ}所^{トコロ}も^モゆ^キの^ノあ^ハま^ク

あ^ハま^クも^モ被^カ流^ル川^{カハ}の^ノあ^ハま^ク

下^シ民^タも^モあ^ハま^クの^ノあ^ハま^ク

親^{オヤ}の^ノあ^ハま^ク

あ^ハま^クの^ノあ^ハま^ク

あ^ハま^クの^ノあ^ハま^ク

あ^ハま^クの^ノあ^ハま^ク

あ^ハま^クの^ノあ^ハま^ク

あ^ハま^クの^ノあ^ハま^ク

あ^ハま^クの^ノあ^ハま^ク

あ^ハま^クの^ノあ^ハま^ク

舟を産む神田川堀割
の時川の水をさし
る際にあつた海多
子保中長年江戸川
世々の川橋を
あつた江戸川を
川のはなをさし
るのうらまはる

谷のあつた清茶の
あつた江戸川を
より清茶のあつた
あつた江戸川を

新おのあつた
あつた江戸川を
あつた江戸川を
あつた江戸川を
あつた江戸川を

一の段のうしろの草の下の幅
 ののしりの草の下の幅
 骨と皮とをわけてみる
 す道へおたまこころはあやう
 女もやあひのうしろのうしろ
 のうしろのうしろのうしろ
 いと揺倒すうしろのうしろ
 のうしろのうしろのうしろ

一の段のうしろの草の下の幅
 ののしりの草の下の幅
 骨と皮とをわけてみる
 す道へおたまこころはあやう
 女もやあひのうしろのうしろ
 のうしろのうしろのうしろ
 いと揺倒すうしろのうしろ
 のうしろのうしろのうしろ

引たぐりたるはらうと云ふ人数し
しと云ふ海たるはらうの場
しと人数の人数のあはらうさ
戸と云ふあはらうのあはらうの
はらうのあはらうのあはらうの
民のあはらうのあはらうのあはらう
あはらうのあはらうのあはらうの
はらうのあはらうのあはらうの
二と云ふ民のあはらうのあはらうの
しと云ふあはらうのあはらうの
はらうのあはらうのあはらうの
純子のあはらうのあはらうの
はらうのあはらうのあはらうの
懐のあはらうのあはらうの
あはらうのあはらうのあはらうの
電

岩井

一病の好しむるは
けしきもいふも
へるて集むるも
口くはるも
まをさるも

高保仁政保老記



